

(様式第3号)

令和元年8月9日

議員視察報告書

赤穂市議会

議長 釣 昭彦 様

派遣議員氏名

家入 時治 印

山野 崇 印

竹内 友江 印

下記の通り、行政視察に参加しましたので報告します。

記

1. 実施日 令和元年7月22日(月)～7月24日(水)(3日間)

2. 調査市及び調査項目(詳細については別紙のとおり)

(1) 北海道当別町 令和元年7月22日(月)

- ①当別ふれあいバス 官民共同運行コミバスについて
- ②議会運営全般について(添付資料参考)

(2) 北海道砂川市 7月23日(火)

- ①砂川市民病院の経営改革の経緯と運営について
- ②議会運営全般について(添付資料参考)

(3) 北海道小樽市 7月23日(火)

- ①子育てトレーニング教室の取り組みについて
- ②議会運営全般について(添付資料参考)

政 務 活 動 報 告 書

視察地：北海道当別町 令和元年7月22日（月）

視察目的

赤穂市も高齢化が顕著で、「社会的孤立者」が目立ち始めている。これには、まず、高齢者の足の確保（買い物・通院）や日常的な交流ができる居場所づくりも必要である。

官民共同運行コミュニティーバスによる交通弱者対策とその成果を学ぶことを目的とする。

1. 当別ふれあいバス 官民共同運行コミバスについて

（1）当別町の交通の特徴（H17年当時）

J R（学園都市線）があり、市街地がJ R駅を中心に二極化、その他は広大な農地で住民が分散している。（市街地を結ぶ公共交通はJ Rのみ）

住民対象の路線バスは2路線のみで、企業等がその代替として、無料送迎バスを多く運行している。送迎バスは利用者が決まっているため、一般の住民は利用できない。

（2）当別ふれあいバスの概要

「路線バス・福祉バス」対象者：市民

「医療関係等送迎バス」対象者：患者・学生

「地域限定住民送迎バス」対象者：限定住民

この3ルートを一元化にすることにより、路線・経費を一つにまとめ、皆が利用できるコミュニティーバスとしてH18年4月から運行開始した。

一路線200円・乗り放題の応援券、大学と病院は無料チケットも発行している。

（3）実証運行の経過

H17年 当別バス交通体系調査検討委員会を設置

H18年 実証運行開始（1年目）

H19年 実証運行（2年目）

H20～22年 実証運行（3～5年目）

H23年～本格運行スタート

（4）バイオディーゼルエンジンへの改良

バイオマス燃料は、下段モーターが精製機購入から始まり、廃食用油を家庭からの回収にも取り組む（町内回収拠点を段階的に増加）。札幌市北区にも廃食用油回収の協力を得る。

（5）運行事業の実施と運賃

◇1回一路線：200円（小学生・障がい者100円）

◇回数券：一般2,000円（12枚）小学生・障がい者2,000円（24枚）

- ◇無料チケット：通院及び通学
- ◇応援券：全線乗り放題の定期券
- ◇子ども定期：夏休み冬休み限定乗り放題格安定期
- ◇1日乗車券：1日バス乗り放題

2. 議会運営全般について（添付資料参考）

3. 所感

（竹内）

当別町のふれあいバスの発起人は下段モータース社長が廃食用油からバイオディーゼル燃料精製機を購入し、地域社会に貢献した事に痛く感動する。また三者（路線・医療・地域）をまとめた職員の努力は適材適所の人事が必要不可欠であると学ぶ。

（山野）

官だけで足の確保を担うのは財政的に厳しくなってくるのではないか。当別町のように官民共同でバスの運行事業を行なうことでお互いにメリットを見出すだけでなく、廃油を市民の方に提供していただくなど地元貢献の意識も高まる取組みであった。

しかしながら、当別町には大学生が通っているということもあって、どこの自治体でもできる取組みではないように思うが、民との協同は一考すべきであると感じる。

（家入）

住民が町民のためにコミュニティーバス運行に協力する地元愛に感動した。自動車整備会社がバスの運行を実施するという官民共同のコミュニティーバスだが、環境にもやさしくするバイオマス燃料の開発、バスのエンジンの改良など民の知恵と市の支援で町民の足の確保が実現している。

4. 説明者

北海道当別町議会議長 後藤 正洋 議会事務局長 野村 雅史
 ♪ 企画部企画課長 長谷川 道廣
 ♪ ♪ 企画課 交通移住観光係長 有澤 彰
 ♪ ♪ ♪ 観光係主事 平田 拓也

（写真下は当別町役場前にて）



視察地：北海道砂川市 7月23日（火）

視察目的

赤穂市民病院が担う「地域づくりの核としての病院」が、人口減少等により患者数減少に伴う収益の減少、医師不足等課題は山積である。経営改革、医師確保などを学び、赤穂市民病院が地域の核として価値を上げるため、砂川市立病院の経営を学ぶ。

1. 砂川市立病院の経営改革の経緯と運営について

(1) 砂川市立病院の医療体制の経緯

昭和15年町立社会病院として開設、以後順調に病院の拡充を図り、H17年地域癌診療拠点病院の指定、H22年認知症疾患医療センター指定、H24年院内保育所開設・立体駐車場完成。

H26ハイブリット手術室、又一般病棟44床を地域包括ケア病床に機能変換。H28年には外科を消化器外科・乳腺外科・緩和ケア外科へ分離。現在は、診療科25科、病床数498床を有し、地域の基幹病院としての役割を果たしているが、^{なかぞらち}中空知医療圏も人口減少から、経営状況が伸び悩む状況にある。

(2) 新公立病院改革プランにおける4つの視点

ア、地域医療構想を踏まえた役割の明確化

北海道が策定した北海道医療計画・地域医療構想を踏まえて、当病院が果たすべき役割を明確化し、地域における安定した医療提供体制の構築に寄与することとする。

イ、経営の効率化

適切に役割を果たし、良質な医療を提供していくためにも収支改善に向けた具体的なプランを策定した。

ウ、再編・ネットワーク

地域構想区域内において予想される再編成・ネットワーク化について、当院が具体的な措置を講じる。

エ、経営形態の見直し検討

指定管理者制度や独立行政法人化を含めた見直しの検討は、

- 砂川市立病院の現状分析
- 検討結果(SWOT分析)
- 外部環境分析(需要バランス)
- 財務分析(収益・費用)
- 診療機能分析(入院・外来・生産性)
- 分析から見えたもの(高齢化・人口減少)

※戦略マップ(BSC)の作成

- ①財務の視点②顧客の視点③業務プロセスの視点④学習と成長の視点

※収益を増やすため

患者数を増やすには、紹介・逆紹介をして、札幌(大手病院)などへの患者流出を防ぎ、手術患者数を増やす。DPC病棟訪問(院長+診療情報管理士)、医療課職員の診療報酬に関するスキルアップ(各種指導料と加算)、単価を上げる。今後は医事課だけでなく多職種で取り組む。

※砂川市市民病院が目指すもの

中空知の基幹病院として、高度急性期、急性期医療、専門医療から、回復期、在宅、予防医療の中で、砂川市立病院でなければ実践できない分野に注力する。限られた医療資源

(人材・機器・システム情報)を有効に使う。医師・医療従事者の労務軽減策。外来診察での労務軽減と地域の医療機関へ逆紹介を行う。

今やらなければもう後がない！

★急性期医療に特化する。そのためには病院への外来を少なくし町のかかりつけ医院に願います。(電子カルテは、砂川市立病院と中空知地区ネットワークで共有できる)

2. 議会運営全般について (添付資料参考)

3. 所感

(竹内)

提供された視察資料を拝見して経営分析に感心する。都市部以外の病院は何処も似たような問題を持っているが、医師数95名を確保していながら、医療費の伸び悩みがある。これには多くの問題があるが、医療課職員の医療報酬に関するスキルアップに努力している。

合言葉として頂けるものは頂く、逆紹介を増やすこと等を学ぶ。

(山野)

自治体病院の厳しさというのは誰もが認識している。病院経営は何か特別なことではなく、再建に向けて職員、医師など関係者が一丸となつての地道な取組みが大事であるということを教えてもらった。

(家入)

砂川市立病院の事務局職員は、採用から病院事務に当たっているため、専門的な知識を身につけている。現在、元病院管理者の小熊先生が全国公立病院協議会会長であるが、医師の確保は厳しくなつてきているという。

医師・看護師・病院スタッフが働きやすい環境を作ることが、医師・看護師確保に繋がるという考え方で、現在のその取り組みをしている。

4. 説明者

北海道砂川市議会副議長 増山 裕司 事務局長 和泉 肇

々 砂川市立病院事務局長 朝日 紀博

々 々 事務局経営企画課長 渋谷 和彦

々 々 々 企画課係長 阿部 雅和

視察地：北海道小樽市 7月23日(火)

視察目的

核家族化や都市化の進展による、家庭の養育力の低下や地域における総合助け合いの低下、かつては同居家族や近隣から得られていた知恵や支援が得られなくなり育児の孤立、虐待など問題点が見受けられ、対策に取り組む先進地で学ぶ。

1. 子育てトレーニング教室の取り組みについて

(1) 事業目的

「どならない子育て練習法」の「非暴力コミュニケーションによるしつけ」を学ぶ機会を提供し、子育て家族の養育能力の向上を図ると共に、子どもが従わないため暴力をふるってしまうなどの状況に保護者が陥ることを未然に防ぎ、育児における親子双方のストレスを軽減することを目的とする。

(2) 事業概要

平成26年度から本事業を実施、市内の1歳から小学校低学年の子どもたちを養育している保護者を対象に入門編及び実践編のトレーニング教室を開催している。

子どもに伝わりやすい褒め方や叱り方などを身に着けることにより、エスカレートしがちなバッドサイクル（有害連鎖）からグッドサイクル（良好な相互関係）へ変化させることを学ぶ内容。

【入門編】 1時間30分で概要（全1回、年2回開催）

【実践編】 1時間程度ロールプレイ手法で学ぶ（全4回 年2回開催）

※共通事項～定員10名、託児所5名（就学前の子どもに限る）費用無料、募集は、チラシを市内保育所や関連施設に掲示したり、公報紙及び市ホームページに掲載するなどしている。

参加人数	年度	H29	H30	R1
入門編		5	4	8
実践編（※2）		2	5	（※1）

※1 R1実践編は8／1から受付

※2 H29はグループ教室

子育てトレーニング教室では、子どものしつけ方として

「しなさい」ではなく「～しようね」「～しないでね」ではなく「～してね」

→具体的な言葉で伝えよう ～単語だけに省略しないこと

子育てが楽になるちょっとした考え方

子育てに {プラス思考} {一番の願いは叶っている} {ないもの探し} をせずに {あるもので満足} {実際にそれが起きてから悩む} {何が起きてもなんでもないこと} {すべて自分の都合のいい方に考える} {悩みは他人事にする} {迷った時はどちらを選んでも大正解}

【怒鳴らない子育て】のポイント

◇1人で悩まない ◇笑顔 ◇ほめる ◇いいかげんにしなさい ◇わかりやすいコミュニケーション等

参加者の声

- ・言い回しなど上手くできなかったが、優しく褒めてもらえた。もっと自分に自信を持とうと前向きになられた。
- ・学ぼうちに子どもとのスキンシップが増え、グッドサイクルになった。
- ・託児所付きなので講義に集中できた。

2. 議会運営全般について（添付資料参考）

